

## 音の出る漢字カードで楽しく漢字学習

# 優秀賞

愛知県 小牧市立小牧南小学校

教諭 丹羽 典子



この度は「優秀賞」という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に存じます。私は外国人の学習言語習得を応援する NPO 法人にわたりの会の代表も務めています。子どもの頃より書道に親しみ、漢字学習が好きな私でしたが、教員になってからはなかなか漢字に向かい合うことはありませんでした。しかし、外国人に漢字を教える立場となり、漢字指導に真正面から取り組むことになりました。小学生が学ぶ漢字すべてを音の出る漢字カードにし、アプリ化できた今年、白川静漢字教育賞をいただけたご縁に、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

### 実践の概要

漢字に親しみのない外国人の漢字力を音の出る漢字カードで高める。

### 実践の内容

#### ・音の出る漢字カードについて

1枚のカードに1つの漢字とその意味が分かるイラストを用意し、音読み訓読みの言葉を一つの例文に組み込んだ漢字カードを256枚作った。その後、3～6年生の漢字カードを追加した。

教育漢字を含む語彙は日本語の必修語彙である。この必修語彙を漢字に親しみのない児童生徒は家庭で、基本的な母語の言葉として獲得している。母語で知っている言葉を、漢字で表記する日本語と結びつけて丁寧に教えていけば、その後の学習がスムーズであると考えた。

また、日本語は音素の少ない言語である。そのため、日本語は同音語が多くなりやすい。同音意義の漢字を見せ、このようなことに気をつけることの必要性を教える。

各例文には北京語、広東語、英語、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語の訳文をつけた。

漢字の音訓読みと日本語と各国語の例文に、ネイティブによる音声ファイルを用意し、音声ペンでタッチすると印刷された例文の音声聞くことができるようにした。

#### ・実際の指導例

<ブラジル人男C（14歳）の場合（H29年5月～現在）>

14才の4月に来日。小牧市の日本語初期指導教室に在籍して2ヶ月目に、小牧市国際交流協会を經由して父親から弊会に連絡が入った。1. 5年後の高校入試を受けるためには、今のペースで勉強しては間に合わないの、助けてほしいということであった。そこで、Cに漢字力をつけるために弊会は、チームを組んで1日1. 5時間週3日、音の出る漢字カードを使って、漢字を教えることにした。

Cは小学校1、2年生担当漢字を2ヶ月弱で学び終え、3か月で5年生までの漢字を学んだ。Cは音声ペンをあまり使わず、母語と日本語を比べ、必要に応じてポルトガル語でメモ書きしていた。4、5年生担当漢字の学習では、分からない部分を指導者に自分から質問するという形でどんどん学習を進めていった。夏休み明けの課題確認テストを来日5ヶ月目に全教科受けることができた。

### 今後の課題

日本語を学びたいと思う人々に、この漢字カードの存在を知らせていきたい。また、漢字仮名交じりという日本語の意義ある特長を多くの人に知らせ、新しい日本語学習の仕方を広めたい。

